



「安心・安全 やさしい大阪の実現を」と100人の女性が壇上でエール

熱い秋

職員から働きがい奪い 住民には冷たい
そんな大阪 変えるチャンス!

思いはひとつ ちからをあわせよう

“いのちとくらし第一 大阪から政治を変えよう!” 「10・4大阪府民大集合」が難波の大阪府立体育会館で6500人の熱気あふれる中、行われました。

はじめに、主催団体である「明るい民主大阪府政をつくる会」が、「大阪の住民は今の政治の矛盾に気づき始めている。今こそ、大阪を変えよう!」と呼びかけ、大阪自治労連婦人部もひまわりをイメージした黄色のタペストリーに婦人の願いをこめて、100人の女性で壇上を埋め尽くしました。(関連記事3面)



「大阪から政治を変えよう」がっけり握手する梅田章一さん(左)と、わたし考一さん(右)



「大阪をよくしたい」会場は熱気であふれました



泉佐野の「これから」を背負って立つ3人の青年中央執行委員

- 永井 拓馬さん(右) (26歳 保育士・4年目)
- 竹内 俊平さん(中) (26歳 保育士・5年目)
- 山口 亮さん(左) (24歳 保育士・3年目)

「市民のため」という言葉で正当化しつつ、非民主的なやり方で市役所を私物化する。こんな市長の横暴は絶対に許さない!と、永井さん。「みなさん、一度市長のブログを見て下さい。公人である市長という立場をどう理解してるのか!」と、怒るのは山口さん。竹内さんも「職員に対する雇用責任を全く放棄して、財政破たんも市職労の責任にするような論調。ホンマに腹立つ」と、怒り心頭。3人は泉佐野市職労の中央執行委員です。

8%カットでは生活保護水準以下 ぼくらの生活どうなるんだ!

4月の統一地方選挙で「職員の賃金を20%削減する」ことを公約として掲げて当選し

みんなで学習→「横暴市長にストップ」の

た千代松市長は、労使関係を無視し、一方的に6月議会に20%削減を提案。しかし、議会通過が困難と判断すると撤回もせず8%削減に訂正し、労働組合との一切の協議・交渉なく条例化、7月から賃金削減が実施されました。

市職労は、職場集会を積み重ね、公平委員会への措置要求運動を提起。消防職員を含む全職員の7割を超える588人の連名で代表して昼馬委員長が提出しました。

抗議行動の時、「ぼくら青年層はもともと低い賃金なのに、そこからさらに下がったから生活保護水準以下になる。家族が事故や病気で、治療費が払えない。この実態を市長としてどう思っているのか?」と訴えても市長は「そうですか」とまるで他人ごと

世論をつくり 市長を「四面楚歌」に!

「今回は死活問題。今までは積極的に組合活動に関わってなかった自分も、毎日結集で刻々と入る情報や取り組みの状況をみんなに漏れなく伝えるようにしました。一人では何にもできないけど、共感できる仲間がいれば元気が出ます。組合加入の理由も仲間を求めていたから」と、山口さん。永井さんも「組合員はそれぞれ活動できる時間も違うし、思いの強弱の差もあります。『動員やからきてね!』と頼むようなやり方から脱却して、『こんな時どうしたらいいやろう?』とみんなで考えあい学習し、行動を提起しあえるような全員参加の活動にしていきたいです」と、力強く語ります。

「市長の横暴許さない!」3人の怒りはエネルギーとなつて、市職労の未来をひらきます。

怒り爆発

千代松市長の独裁・横暴・暴走に

とでした。「市長の横暴や無責任さを市民にどうやったら明るみにできるのかを今、考えています」と、竹内さん。

この思い、みんなで共感知恵を出しあつて行動したい